

〔鳳〕 字印二十種

河野 隆（鷹之）

Takashi (Yoshi) Kawano

一字印は構成要素は単純だが、逆に、非常に端的な表現のおもしろさが期待できる。それに対して、二字以上の題材は文字の様式が統一がまず求められ、篆刻三法の中の字法上の取扱いが印をまとめる際の關鍵となり、印面構成は複雑な要因が多くなって来る。その点、一字印は篆書に限らずすべての書体、すべての字形がそのまま印に取り込める素材となるので、工夫次第で表情豊かな、おもしろい印に昇華することができる。

筆者は近年一字印に着目して、同字印を二、三十種刻り、表現の多様性を追求するとともに、統一テーマによる集合体としての発表のおもしろさに心引かれている。過去に〔華〕、〔寿〕、〔龍〕を試みたが、今回は〔鳳〕を題材として三十種余りを試刻した。〔鳳〕は甲骨文では「風」と通じ、さらに時代が下ると「朋」、〔鵬〕とも音通するので、多くの字形を対象とすることができる。印面構成に当たっては、文字の様式、朱白、材質、印形、印刀などを種々比較検

討して、それぞれ異なる趣きの多様なバリエーションを展開することを狙って制作した。

この連作の発表に当たっては、縦22.5cm×横13.5cmの私製印箋を発泡スチロールボードに一顆ずつ貼り、印材をその横に並べて印影と印面の刀痕の様を対照できるようにした。印材の材質（青田石・寿山石・巴林石・木・竹根・コルク・陶・磁・発泡スチロール版）と刻法の連関を知ることによって、鑑賞が一段と深まると考えたからである。

以下、一つひとつの印について概要を記し、作印の意図や背景等を紹介する。

① 三分角朱文

「鳳」と「朋」は同音同義で通用される。この形は説文古文に見え、中央に三連で同様の形が繰り返される部分は、貝朋（玉や貝

を紐に通した形)を表すという。

〈側款〉 朋字印。隆作。

② 縦1.8cm横1.7cm楕円白文 竹根材

「鳳」の隸書体を台湾産の竹根材に配してまとめた。台湾の竹根は油分を多く含み刻りやすい。印側は幾何紋をあしらひ、緑青と金箔で着色加工して、把玩鑑賞の際の楽しみが味わえるように手工した。

〈款文〉 鳳一字印。臺灣産竹根印材。甲午秋夜。隆。

③ 六分円朱文 青田石

「鳳」字は聖武天皇の雑集中より取材した。印面中心より高い位置に文字を配し、下部に広く余白を取って、明るい印面構成を工夫した。

〈頂款〉 甲午秋日。鷹之。

④ 一寸二分角朱文 瓷印

磁土で印体を作り、乾燥後素焼をしない柔らかい状態で直ぐに奏刀した。チョークのような硬さで非常に脆い材質なので、カッターナイフのようなごく薄い刃先の印刀を用いて、さつくりと小気味よく運刀し、字口を深く切り込むことを意識した。印側・印頂は乳白釉という真っ白な釉薬を使用した。

〈款文〉 盜印、上乳白釉。壬辰年夏日、臺灣特別研修之際、修得

技法。不用素焼、材乾后直可以奏刀。性頗脆而容易破碎。

與石木差不少。鷹之。

⑤ 縦1.7cm横1.0cm朱文 木印柘植材

木地の緻密な柘植材を用い、漢金文の態を入印し、ハンサシという偏鋒斜刀を使って専ら推し刀で刻った。底部のサライは2mm幅の間透という刀を使用。

〈款文〉 黄楊材木印。甲午秋日。鷹之并誌。

⑥ 縦2.0cm横1.4cm朱文 巴林石

甲骨文に見える字形を長方形に配した。甲骨の「鳳」は「風」にも通じ、同形で二義に用いられる。細めの線で刀意がはつらつとした甲骨の表情をのびやかに表すことを意図した。

〈側款〉 仿甲骨。甲午秋日。隆刻。

⑦ 直径2.6cm円朱文 コルク材

軟木のコルクを印材とした。材質は脆く欠けやすく、弾性があるのが特徴である。木竹を刻る片刃の印刀でもまだ刃が厚すぎて線の際が壊れ落ちることがよくあり、カッターナイフよりも薄い特製の印刀(両刃平刀)を用いた。鈴印の際、軽めに押す方が軽快な趣きが出て、素材の特性が自然に表れるようだ。

〈款文〉 鳳一字印連作之一。軟木材也。粗而易闕、面有彈性。輕

鈴頗出雅趣。隆并識。

⑧ 七分角 朱文 寿山石

九成宮醴泉銘中の斉正な楷書を素材とした。二重の輪郭を設定し、外郭に複雑な表情を持たせ、端正な字形と対比させようとした。

〔側款〕鳳一字印連作之一。鷹之。甲午九月。

⑨ 縦2.0 cm横1.2 cm 朱文 楢円 寿山材

半篆半隸の姿態に興味を持ち、即興的に布字して奏刀した。五、六分の即興作である。

〔側款〕鷹之。甲午九月。

⑩ 四分角白文 青田石

方正平直な印篆の態を入れ、肉太な線で大胆に奏刀した。下部の小斜画の繰返しに動きを加え、単調さを破ることを狙った。

〔側款〕平成廿六年九月十八日、乗興匆匆作此。隆。

⑪ 縦1.4 cm横0.9 cm 白文、巴林石

即興的に布字し、勢いにまかせて運刀した数分の試作印。即制のおもしろさは多少表れたか。

〔側款〕鳳一字印。艸々布字、艸々刻。甲午白露。鷹之。

⑫ 四分角白文 寿山石

「朋」字の曲線のみによる字形に興味を持ち、内輪郭を施した中に、円転する斜画を躍動的に表現しようと狙った。

〔側款〕鳳朋同音相通。隆。

⑬ 五分角朱文 巴林石

草書体の「鳳」を印面中心よりも少し高く配してまとめた。四隅もやや外丸に仕上げ、堅くならないよう配慮した。

〔側款〕甲午九月 隆刻。

⑭ 七分角白文 獸鈕寿山石

北魏の鄭義下碑中の字形を入印した。点画の破碎によるつぶれの白が自然に出るように大胆な刀法で臨んだ。

〔側款〕擬鄭義下碑之態。隆。甲午九月。

⑮ 六分角朱文 瓷印黄色釉

漢金文の態を配し、輪郭を設定せず、外辺の点画が兼ねる章法とした。素焼をしていない瓷土材はチョーク程度の硬さで、奏刀の際普通の印刀では線の土手が崩落してしまうので、両刃平頭の超薄刃印刀を特製してそれを使用した。

〔側款〕鳳字即興之作。鷹之。

⑯ 縦2.0 cm横1.6 cm 白文 巴林石

線の際に印刀を深く切り込み、墨のにじみに似たつぶれた白の豊かさが出せればと意識した。

〔側款〕此材石質粗而脆。運刀不如意。隆刻。

⑰ 縦2.7 cm横1.8 cm 朱文 竹根材

一カ所独特のくびれのある竹根印は、それなりの表情が演出できるので素材として大変おもしろい。埴文の半篆半隸の字形を入れ、ハンサシと呼ばれる偏鋒斜刀と間透（幅2mm）の二種類の印刀を使用して刻り上げた。

印側には青銅器の雲紋を陽刻して、底部には緑青を塗り、突出部には金箔を貼って、掌中愛玩に適うように加工装飾した。

〈側款〉臺灣所産竹根材。油性較多、奏刀輕松、吾所嗜也。埴文鳳字、艸々布字艸々刻成。甲午秋日、鷹之。

⑱ 六分角朱文 木印古梅材

細めの清爽な線條で呉の埴文の字形を表現しようと狙った。上部の水平垂直構成に対して、下部は斜角を多用して動きを出そうとした。字の重心を高く据え、左右と下に余白を広く取って、明るさと安定を演出した。印刀は⑰に同じ。

〈側款〉古梅材也。取呉埴文之趣、略得其意。隆并識于湘南。

⑲ 縦1.0cm横0.9cm白文 陶印ルリ釉

粒子の粗い陶土で印体を作り、八百度で素焼をした後、布字奏刀、数分の即興作である。運刀は意の如くにならないが、却って古樸な樂趣は出たかと思う。

〈側款〉陶印。此材甚粗而硬、運刀不如意、古樸可愛。鷹之。

⑳ 縦六分横五分 朱文 巴林石

甲骨文の字形を入れ、冴えのある細めの線條で表現し、下部の斜画で空間に動きと変化を求めた。

〈側款〉鳳一字印。仿甲骨。甲午秋夜。鷹之篆于湘南。

鈴拓墨書に用いた用具、用材は左の通りである。

〈印泥〉手工特製朱磬印泥（杭州・陳琪女史手製）

〈筆〉「選毫圓健」善鍾集藝齋製

〈墨〉「玉壺」玉川堂

〈紙〉連史紙 版心「震風廬鐵筆」

縦22.5cm×横13.5cm

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲

